

## 麻疹、風疹、麻疹風疹混合ワクチンについての説明



静岡県立こども病院 予防接種センター

### 1) 病気の説明

#### ○麻疹

原因は麻疹ウイルスです。ウイルスは空気感染し、伝染力が極めて強いのが特徴です。ウイルス感染の約 10 日後、発熱と咳、鼻水などの症状が始まり、コプリック斑(頬の内側の白い粘膜疹)が出現します。2～3 日熱が続いた後、発疹が出現し、発疹は 3～4 日で色素沈着を残して消退します。

小児のウイルス感染症の中ではもっとも重く、体のだるさや食欲不振など全身症状が強くみられます。肺炎などを合併して死亡することもあります。

脳炎を約 1000 人に 2 人、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)を 100 万人に 21 人程度合併します。

#### ○風疹

原因は風疹ウイルスです。感染後 2～3 週間の潜伏期を経て発症し、発熱、紅色発疹、頸部リンパ節腫脹などがみられます。年長児や成人では関節炎の頻度が高くなります。たいてい軽く済みますが、血小板減少性紫斑病が 3,000 人に 1 人、脳炎が 6,000 人に 1 人、まれに溶血性貧血もみられます。

妊娠初期の妊婦が風疹ウイルスに初感染すると、胎児に感染して先天性風疹症候群(難聴、先天性心疾患、白内障を合併)が発生します。その予防が風疹ワクチンの大きな目的です。

### 2) ワクチンの効果

麻疹、風疹、麻疹風疹混合ワクチンとも予防接種の効果は非常に高く、95%以上が免疫を獲得し、長く続きます。ただし、1 回だけの接種では生涯の免疫を維持できないため 2 回接種する必要があります。

### 3) ワクチンの特徴

麻疹、風疹および麻疹風疹混合ワクチンは、いずれも弱毒化したウイルスを凍結乾燥した生ワクチンです。

### 4) 接種方法

ワクチンの 1 回量は 0.5ml で、これを皮下注射します。

	年齢	回数
第 1 期	1 歳以上 2 歳未満	1 回
第 2 期	5 歳以上 7 歳未満かつ 小学校入学の 1 年前から入学の前日まで	1 回

### 5) 副反応

#### ○麻疹

1 割程度の人に発熱がみられます。発熱の時期は接種後 5～14 日、持続期間は通常 1～2 日です。発熱のため熱性けいれんを起こすことがあります(約 300 人に 1 人)。接種後 1 週間ほど後に麻疹様の発疹が約 5%に認められます。

まれに、接種直後に接種部位の発赤・腫脹、じんましん、ショックなどのアレルギー症状がみられることがあります。また、接種後 1 日以内に全身、または四肢に発疹を生じることがあります。

きわめてまれに脳炎・脳症や亜急性硬化性全脳炎の発症が知られていますが、麻疹に罹患した場合に

較べると発生頻度は低いことが知られています。

#### ○風疹

副反応はあまり出ません。接種後5～14日に数%の割合で発熱がみられることがあり、さらに低い頻度で発疹やリンパ節腫脹が認められます。重篤な副反応の報告はほとんどありませんが、まれに血小板減少性紫斑病がみられます。

#### ○麻疹・風疹混合ワクチン

麻疹ワクチン単独接種とほぼ同程度の副反応がみられます。

#### 6)接種上の注意点

生ワクチンですのでガンマグロブリンの注射や輸血を受けた方は一定期間接種できません。

#### 7)接種後の注意

ワクチン接種後 30 分間は院内にとどまり、様子を観察してください。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、嘔吐、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに接種した医師か看護師に声をかけて下さい。この間に全く異常が見られなければ、看護師にその旨、一声かけて帰宅して下さい。

#### 8)帰宅後の注意

激しい運動はさけて下さい。その他はいつも通りの生活を送ることができます。入浴もさしつかえありませんが、注射した部位をこすらないで下さい。